

一人ひとりに寄り添い身近な存在に

TAKE FREE  
ご自由にお取りください

# かし和

2026.5 47

柏市立柏病院広報誌

特集

## 新しく着任した医師をご紹介します 新任医師のご紹介

- 🔍 連載インタビュー 「先生に聞いてみました！」
- 🔍 健康は日々の食事から かしわ食卓日記 「たけのこの炊き込みご飯」
- 🔍 薬剤科 [チーム医療を支える現場から]

topic

- 東葛北部5市 救急隊員への「救急講習会」を開催しました

かし和 INFORMATION

- 専門医師がわかりやすくお話しします！ 病院主催「市民講座」のご案内

今年度より新しく着任した常勤医師をご紹介します。

- ① 出身地
- ② 出身大学
- ③ 趣味・特技
- ④ 子どもの頃の夢
- ⑤ 好きな言葉・座右の銘
- ⑥ 診療に心がけていること・大切に思っていることを聞いてみました!



やまお かずや  
**山尾 一哉**

## 循環器内科(不整脈)

- ① 徳島県
- ② 愛媛大学
- ③ AI開発
- ④ 科学者
- ⑤ 切磋共進
- ⑥ 患者さんに適切な医療を受けてもらえるようサポートしていきます。



ただおか なおき  
**忠岡 直樹**

## 循環器内科

- ① 東京都
- ② 東京科学大学
- ③ 野球観戦、ドローン操縦
- ④ パイロット、タクシー運転手
- ⑤ Time is Muscle(時は心筋なり)
- ⑥ 柏魂を心に宿し、大胆かつ粘り強い診療を心がけています。



のぐち のりお  
**野口 典男**

## 外科(肝胆膵外科)

- ① 東京都
- ② 群馬大学
- ③ 音楽鑑賞
- ④ 電車の運転手
- ⑤ 人事を尽くして天命を待つ
- ⑥ 正確な診断のもと、患者さん一人ひとりにあわせた最善の治療を行うことを心がけています。よろしくお願ひいたします。



よしい じゅんいちろう  
**吉井 淳一郎**

## 外科(肝胆膵外科)

- ① 鹿児島県
- ② 東京科学大学
- ③ スポーツ観戦
- ⑥ 外科医にとって手術は毎日の仕事の一部ですが、患者さんにとっては生涯に一度の出来事です。このことをいま一度心に刻んで手術に臨んでいます。



おおくぼ やわら  
**大久保 和**

## 外科(一般)

- ① 東京都
- ② 東京科学大学
- ③ サッカー、散歩
- ④ サッカー選手
- ⑤ Manners maketh man.
- ⑥ 患者さんやご家族の訴えに耳を傾けながら、丁寧な診療を心がけています。



きたがわ きょうた  
**北川 恭太**

## 整形外科(脊椎)

- ① 富山県
- ② 千葉大学
- ③ ゲーム
- ⑥ よく話を伺って、適した治療法を考えます。



やなぎまち なおき  
**柳町 直輝**

## 整形外科

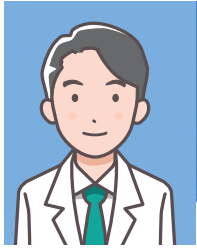
- ① 宮城県
- ② 山形大学
- ③ サッカー観戦
- ④ サッカー選手
- ⑤ 初志貫徹
- ⑥ 患者さんに寄り添い診察させていただきます。



さめもと ちなつ  
**鮫元 千夏**

## 小児科(小児循環器)

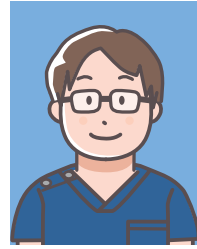
- ① 大阪府
- ② 北里大学
- ③ スポーツ観戦、旅行、ミュージカル鑑賞
- ④ 英語を使える仕事につくこと
- ⑥ 患者さん一人一人の話をよく聞き、患者さんに寄りそった診療を提供したいと思います。



すずき きょうすけ  
鈴木 響介

### 眼科

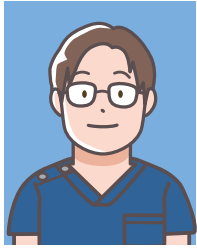
- ① 東京都
- ② 東京科学大学
- ③ ゴルフ
- ④ 医師
- ⑥ 患者さんに寄り添った丁寧な診療を提供していきたいです。



あまぎ ゆうすけ  
天城 佑介

### 研修医

- ① 東京都 ② 神戸大学
- ③ 料理
- ④ 恐竜博士
- ⑤ 日進月歩
- ⑥ 患者さんに寄り添った丁寧な診察ができるように努力していきます。

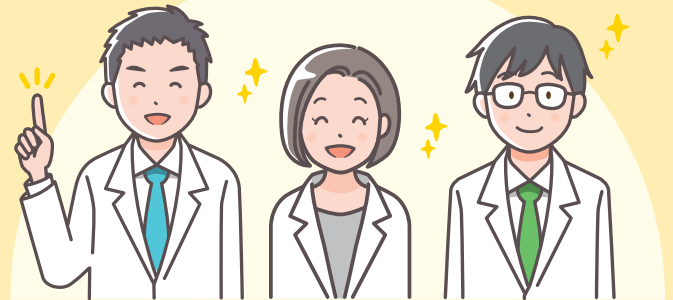


よしだ ただひろ  
吉田 忠弘

### 研修医

- ① 兵庫県
- ③ おいしい店を探す
- ⑤ 情けは人のためならず。
- ⑥ 患者さんに寄り添った治療ができるように努力してまいります。

よろしくお願ひします!



## 【2026年度 新任医師紹介にあたって】

地域の皆様、こんにちは。柏市立柏病院院長の田邊です。私が2024年4月に当院へ赴任して以来、皆様のご期待にお応えすべく、最先端かつ高度な医療の提供に向けた様々な挑戦を続けてまいりました。

具体的には、私の専門である高難度な肝胆膵外科手術の体制拡充をはじめ、眼科では最新機器を導入した網膜硝子体手術、循環器内科ではパルスアブレーションを用いた新規不整脈治療を開始しました。また小児科には循環器専門医が赴任し、今や当院は柏市の小児医療の中心的な役割を担うまでになりました。こうした挑戦を支えているのが、東京科学大学および千葉大学との緊密な連携です。当院は両大学の関連施設として、若手医師を中心とした活発な人事交流を毎年行っています。医師の異動は、常に新しい医療情報や技術を当院にもたらし、高い診療レベルを維持するための重要な原動力となっています。

年度替わりにより、慣れ親しんだ担当医が退任し、寂しい思いをされる患者さんもいらっしゃるかもしれませんが、新しく着任する医師達もまた、志の高い優秀なメンバーばかりです。地域の皆様の健康を守るパートナーとして、彼らを快く迎え入れていただければ幸いです。今後とも、大学との連携を深め、より質の高い医療を地域に還元してまいります。



院長 田邊 稔

### 退任医師のご紹介

- |                |            |             |             |
|----------------|------------|-------------|-------------|
| 船山 遼太郎(循環器内科)  | 村松 俊輔(外科)  | 廣瀬 弘幸(整形外科) | 阪中 優太郎(研修医) |
| 生方 順(内分泌・代謝内科) | 伊藤 菜々子(外科) | 金井 保澄(小児科)  | 吉岡 伶真(研修医)  |

ありがとうございました。

# 先生に聞いてみました！

## 医師として、人として…先生の想いと素顔に迫ります

今回は、小児科 科長 <sup>なかじま けいすけ</sup> 中島 啓介先生にお話を伺いました。

子ども時代のエピソードや、小児科医を志したきっかけ、

そして柏で支えていきたい未来の子どもたち——。

一人ひとりの成長に寄り添う、先生の温かな想いを語っていただきました。



### Q1. 先生のご出身は？

東京都大田区で中学まで過ごしました。実家は鯉節や海苔などの卸問屋をされており、いつも休日は父親の配達に付き合わされていました。

### Q2. 子どもの頃はどんな子でしたか？

おっちょこちょいで、よく転んでけがをしたり問題をよく読まずに間違えたりしていました。あまり身体が強い方ではなく、よく朝礼などで倒れてしまうことも多かったです。

今は当直勤務もこなしており、だいぶ強くなりましたね。



幼稚園の頃

### Q3. 学生時代に熱中したものは？

中学高校はバスケットボール部に所属して、下手なりに頑張っていました。大学的时候は、スキューバダイビング部に入部し、仲間達と毎月のように伊豆へ潜りに行って、通算200本以上も潜りました！

### Q4. 医師になろうと思ったきっかけは？

最初は中学生の頃に入院した時に医師に憧れを持ちました。また、中学の卒業文集の将来の夢の欄には「科学者になりたい」と書いていて、医師ならどちらの夢も叶えられそうだなという思いもありました。



### Q5. 小児科を選択したのはなぜですか？

やはり、子どもの頃に小児科の先生に憧れを持ったことが大きかったと思います。自分も子どもたちに憧れてもらえるような存在を目指して努力して参ります！

### Q6. 医師になってから忘れられないエピソードはありますか？

特定のエピソードというわけではないですが、医師になって20年以上経ち、出生時から継続して診察させていただいているお子さんが成人になっていくことも多くなってきました。

先日も、自分が若い頃に新生児科で主治医をしていた700g台の体重で出生したお子さんと数年ぶりにお会いし、「今度高校を元気に卒業する」というご報告を受けました。お母様とも入院中の苦勞話で盛り上がりました。

## Q7. 趣味は何ですか?休日の過ごし方は?

趣味はサッカー観戦です。去年は念願の日立台に柏レイソルの応援に行きました!(でも、実は鹿島アントラーズファンです)  
週末は子どもがまだ小さいので家族で過ごすことが多いですが、当直明けの休みなどの時にはスーパー銭湯などでのんびり過ごすことが多いです。



現地の熱気はさすがでした!

## Q8. 先生の健康法は?

まずはストレスをため込まないことです。嫌なことがあっても寝たらリセットするようにしています。運動というほどのものではないのですが、たまに自転車で手賀沼の周りを回っています。



## Q9. 患者さんへひとことお願いします

小児科の専門としてだけでなく、子どもに関するちょっとした相談を気軽に出来るような診療を心がけています。我々だけですべてが解決出来ないこともあります。[市立柏病院に行けばなんとかしてくれる! ]とっていただけると頑張ります。

## かしわ食卓日記 36

## 旬のたけのこを使った料理をご紹介します

# 鍋で炊く!! たけのこの炊き込みご飯



※当院で実際に提供している病院食です

たけのこは春(3~5月)が旬の食材です。煮物や炒め物などに取り入れることで、特有の香り、味、歯ごたえを楽しむことができます。また、腸内環境を整えたり、コレステロールの吸収を抑える食物繊維、塩分の排出を促すカリウム、筋肉や組織の生成に役立つたんぱく質などが多く含まれています。季節ならではの食材を食卓に取り入れてみてはいかがでしょうか。



### 【1人分の成分値】

熱量	353kcal
たんぱく質	9.1g
脂質	1.0g
炭水化物	71.7g
塩分	0.5g

### 【材料】2人分

### (調味料)

米	180g	だし汁	220ml
たけのこの水煮	40g	酒	15g(大さじ1)
干しさくらエビ	8g	★ 醤油	4g(小さじ1)
グリーンピース	15g	塩	少々

### 【作り方】

- ① 洗米し、20分程度だし汁に浸す。
- ② たけのこを薄くいちょう切りにし、グリーンピースを湯通しする。
- ③ ①に★の調味料、たけのこ、干しさくらエビを入れて蓋をする。
- ④ 強火で加熱し、沸騰したら弱火で15分加熱し火を止める。
- ⑤ 蓋を開けずに15分蒸らす。
- ⑥ 全体をしゃもじで切るように混ぜ、最後にグリーンピースを入れてサッと混ぜる。
- ⑦ 盛り付けて完成。

### ワンポイントアドバイス

生のたけのこを使用するときは、エグ味の少ない穂先が黄色い物を選び、その日のうちにあく抜きをすると、おいしく食べることができます。

# 薬剤科

## チーム医療を支える現場から

柏市立柏病院では、患者さんが安心して診療を受けられるよう、医師や看護師だけでなく、多くの専門スタッフがチーム医療で力を合わせています。このシリーズでは、そんな「支えるプロたち」の仕事や想いをご紹介します。今回は、**薬剤科**です。

当院では2025年1月に院内調剤を終了し、1年以上が経過しました。これまで外来受診時に関わりのあった患者さんも多いかと思いますが、院内調剤が終了した現在、薬剤師が病院内でどのような業務をしているのかをご紹介します。

薬剤科では、入院中の患者さんやこれから入院する患者さんを中心に医薬品の適正使用の推進、並びに医療における薬学的ケアを実践し、安心と質の高い医療を提供するために日々業務を行っています。

入院後から退院後までの継続した関わりを目指しています！

### お薬外来

- 入院前に面談し使用中の薬や副作用歴について確認

入院前

中止する薬がある際は  
お伝えいたします



### 病棟業務

初回の面談を行い常用薬、副作用歴、  
飲み合わせなどを確認

入院時

入院中

退院時



薬のお話や  
ご質問に回答

継続して正しく薬を  
使用できるように飲み方や  
注意点をお伝え

### 抗がん剤調製

- 投与量、投与期間などの処方監査
- 安全キャビネット内で抗がん剤の調製(ミキシング)



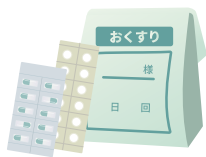
### チーム医療への参画

- 様々なチームに参加しそれぞれの専門分野の研修を受けた薬剤師が活動



### その他

- 医薬品在庫管理
- 医薬品情報の提供
- 治験管理業務
- 薬学実習生の受け入れ



### 調剤・注射

- 処方用法・用量、相互作用、重複投与などに問題がないかを確認
- 投与量や速度や相互作用のチェック、血中濃度モニタリング



患者さんに安心してお薬を服用していただくために、分かりやすく正しい情報を提供することを心がけています。お薬の飲み方や使い方、効能などお困りのことや分からないことがございましたら、いつでもお問い合わせください。

topic

# 東葛北部5市 救急隊員への「救急講習会」を開催しました



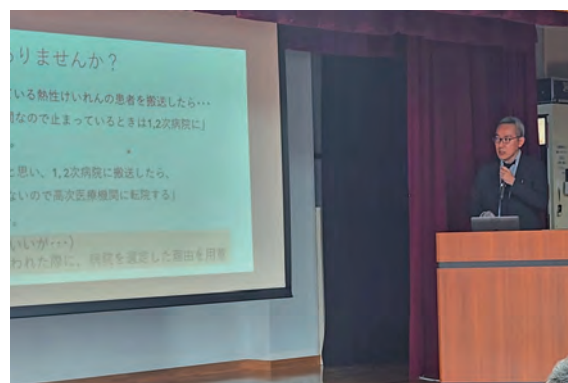
当院では、柏市と我孫子市の救急隊員を対象にした「心電図講習会」を年2回開催してきました。

当院検査科の臨床検査技師が、実際に心電図を使いながら、心電計の取扱い、測定結果からの緊急度や病状判断など、「救急現場で患者さんの命を救うことに役立つことができれば」という思いで開催しています。

また、救急隊からは、病院へ搬送される前の救急現場での状況についての説明もあり、相互にとっても貴重な情報交換の場になっています。



小児科 前田 佳真医師



小児科 中島 啓介医師

今年1月に開催された講習会では、心電図講習に加え、当院の小児科医師による「小児救急」の講演も行いました。

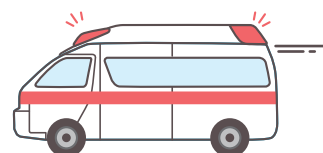
救急隊と病院のスムーズな連携がとれるよう、松戸市・流山市・野田市の消防本部も加えた5市の救急隊員95名が参加し、小児の心電図の見方、けいれん発作時の初期対応、病院との効率的な情報提供など、救急隊との相互理解を深めました。

参加した救急隊員からは、「心電図を基礎から教えていただき、自信ができました。」「小児の意識障害と不整脈の関係や、けいれん重責発作の観察ポイントなどの理解が深まり、今後の救急活動に活かせるものばかりでした。」と感想をいただきました。



ラコルタ柏講堂にて開催

今後も救急隊員と病院スタッフ相互の理解を深め、地域の皆様の安心につながるよう、講習会を続けていきます。



## 病院主催「市民講座」を開催しています

当院では、地域の皆様の健康づくりに役立つ情報をお届けするため、「市民講座」を開催しています。昨年8月と11月の講座には約60～80名の方が参加され、会場はほぼ満席に。たくさんのご参加、ありがとうございました。

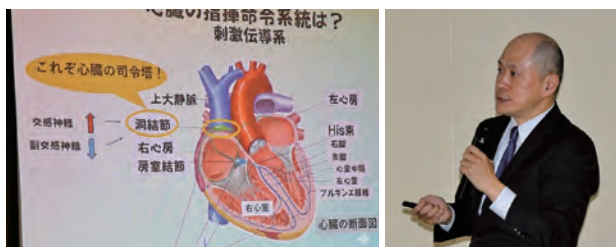


(昨年8月開催)



(昨年11月開催)

8月開催「本当はこわくない! 四十肩・五十肩」では、肩肘関節専門の整形外科 秋山太郎 医師(写真左)の解説に加えて、リハビリテーション科 山田直毅 理学療法士(写真右)が自宅でも簡単にできる肩の体操を紹介し、会場が一体となって体を動かしながら学びました。



11月開催「不整脈を知ろう~心臓のリズム、乱れていませんか?」では、循環器内科 不整脈センター長 飯田啓太 医師が、心臓のリズムの仕組み、不整脈の代表的なタイプ、最新の治療法まで分かりやすく解説。脈拍を実際に触れて数える「検脈」も会場で実践しました。

市民講座の予定は、院内掲示板や病院ホームページなどに掲載いたします。

今後も、皆様の「知りたい!」に応える講座を企画していきますので、是非お気軽にご参加ください。

### 病院ホームページ・市民講座のご案内

<https://www.kashiwacity-hp.or.jp/blog#link03>

お問い合わせ：総合相談・地域医療支援センター TEL 04-7134-2000(代表)



### 編集後記

爽やかな風が心地よい5月を迎えました。

新年度が始まり1ヵ月が経ち、環境の変化にも慣れてきた頃でしょうか。



私は、昨年子どもが生まれたことで環境が大きく変わりました。子育ては大変なこともありますが子どもの日々の成長には多くの驚きや喜びがあります。また、少しずつ出来ることが増えていく子どもの姿を見ると、1日1日を積み重ねていくことの大切さを改めて感じさせられます。皆様も日々の小さな変化を大切にしながら、実りある毎日をお過ごしください。 放射線科 小島

健康と地域医療の発展に寄与する千葉県救急告示病院



公益財団法人柏市医療公社

柏市立柏病院

Kashiwa Municipal Hospital

〒277-0825 千葉県柏市布施 1-3  
TEL: 04-7134-2000



柏市立柏病院ホームページ  
<https://kashiwacity-hp.or.jp>

※バックナンバーをご覧いただけます

※本誌の無断転用・転載はご遠慮ください。